

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚園

名門ボーディングスクールへ新制度で初派遣

●教育先導基金運営委員会委員

尾上義和おのえよしかず

慶應義塾では、初期の寄宿舎制度での全人格的な教育に鑑み、塾内の一貫教育校（高校段階）から各校の枠を越えて選抜した生徒を国外の名門ボーディングスクール（米国内・スクールズ、英国ザ・ナイン）に派遣する「慶應義塾一貫教育校派遣留学制度」を新設しました。生徒たちが世界中から集まる優れた人材と寝食を共にしながら、切磋琢磨できる機会を提供します。

的に参加しています。派遣生はたくさんさんの時間を使って課題に勤しんでおり、中には現在の政治や経済について討論する講座を履修している者もいます。また、日本では考えられないような広大で素晴らしい施設で、スポーツなどに取り組み、ホームシックを感じる暇もないほどに楽しく、充実した時間を過ごしているようです。なお、2015年度は、前述3校に各1名を派遣するの

この制度では、留学費用が奨学金として給付されるとともに、留学後に母校に戻った際、原則留年せずに進級することができ、初年度の2014年度は、積極的にさまざまな学びに挑戦する意欲に溢れる生徒を募集し、米国デアフィールド・アカデミーに湘南藤沢高等部生1名、米国ザ・タフト・スクールに慶應女子高生1名、英国シユルーズベリー・スクールに慶應女子高生1名、英国シユルーズベリー・スクールに慶應女子高生1名を派遣しました。そして8月末に派遣留学1期生として高校2年生4名が渡航し、留学生生活を順調にスタートさせています。



現地生徒とともに活動する派遣生

に加え、英国ウインチェスター・カレッジに高校2年生を1名、米国フィリップス・アカデミー・アンドーバーに高校3年生を1名、1年間派遣する予定です。留学先で卒業資格を得て、帰国後は母校の3年生に戻り、半年ないし1年遅れではありますが留学先と母校の双方を卒業することも可能です。

派遣生が、英米人にとっては

湘南藤沢高等部生各1名を選抜しました。そして8月末に派遣留学1期生として高校2年生4名が渡航し、留学生生活を順調にスタートさせています。

派遣された生徒は、寮の2人部屋で現地生徒と共同生活を送ります。また、5〜6科目を選択し、煉瓦造りの趣のある校舎で、討論形式の授業（12名前後のクラス）に積極

とによって異文化を理解し、自ら課題を発見、解決できる創造的な思考力を身につけ成長してくれることを期待しています。また、彼らが帰国後にその経験を仲間に加え、実績を重ねることで、生徒たちが単に英会話ができることにとどまらず、文化の違いを乗り越え、次世代のリーダーとなるような絶好の機会として、この制度が定着していくものと確信しています。